

式  
辞  
・  
祝  
辞





## 式 辞

富野小中学校長 上 里 哲 夫

本日、ここに来賓をはじめ校区の方々、卒業生並びに郷友会各位の御臨席のもとに、本校創立三十周年記念式典並びに小学校々舎の落成を盛大に挙行することができ、まずことを衷心からお礼申し上げます。

顧みますと、本校は明治の末期か大正の初期に、石垣尋常小学校川平分教場海仮教場として始められたが、間もなく廃校になりました。そこで、児童教育の必要性を痛感した僅か十数戸の字民は、私費を投じて学校組合を組織し、仮教場を再興して村の児童教育に当りました。これら字民の教育熱に対し、関係当局は深い感銘を受け、大正五年四月十五日、川平教場海仮教場として、再び公教育としての学校教育が開始されました。そして、八重山群島に甚大な被害を与えた昭和八年の大暴風の翌九年に海仮教場は、またしても廃校の憂き目を見ることになり、以来二十年余りの長い年月にわたり、児童は川平で不便な下宿通学を余儀なくされました。

昭和二十七年二月二十七日、本校は川平小中学校富野分校として八重山群島政府により認可され、同年四月二十九日、児童数七名、十六坪の木造瓦葺き校舎で開校しました。当時 住民のほとんどは、琉球政府の移住計画による読谷村や美里村の移住者で、まだ風土病マラリアが横行し、うっ蒼としたジャングルの続く米原に入植して開拓に励んだ苦難な時代でした。この厳しい生活の中にありながらも、地域住民の教育に対する熱情と学校施設や設備の不備な中で、児童教育に全力を尽してこられた教職員のおかげで、逞しい開拓魂をもった百九十二名の卒業生を送り出し、ここに三十周年を迎えることができ、実に感慨無量であります。

現在、本地区も過疎化の波を受け、入口は減少しているとはいえ、今なお校区民の開拓魂はかくしゃくして衰えず、近い将来、大田区に設立される国立栽培漁業センター、底原・富野間トンネルの開通、まだ余裕を残す農耕地等を展望するとき、本地区並びに本校の限らない発展を期待するものであります。

幸い、創立三十周年の記念すべき年に巡り合わせた私達は、この節目を意義あらしめるため、期成会を結成し、本校環境の整備

を計画したところ、石垣市や沖縄本島に存在する卒業生の誠意あふれる活動を始め、建設業黒島組、校区の方々、郷友会並びに各団体のご指導とご支援により、計画した事業を達成することができました。ここに、心から感謝申し上げます。また、これまで本校発展のためご指導とご支援を賜りました関係ご当局、本校教育の充実と発展のため励んでこられた歴任教職員、蔭になりひなたになってご協力くださった校区の方々、厚く感謝申し上げます。

私たち本校職員は、皆様のご厚情に応え、教育者としての自覚を新たにし、本校児童生徒の教育により一層努力したいと思えます。今後も相変わりにませぬご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます、併せて、本校の限らない発展を祈念してご挨拶と致します。



## 謝 辞

期成会長 真栄里 昌 茂

本日、ここに創立三十周年記念並びに新校舎落成式典を挙行するにあたり、多数の来賓並びに校区民一同の御臨席を賜り、期成会長として御挨拶を申し上げる機会を得ましたことは、身にあまる光栄であります。

本校は、昭和二十七年二月二十七日に川平小中学校富野分校として、八重山群島政府より認可され、同年四月二十九日には児童数七名、建坪十六坪の木造瓦葺きで開校し、今年をもって創立三十周年を迎えることになりました。

ここに、これまでご苦勞と功績を残された先輩方の御協力と御貢献に対し、心から敬意と感謝を捧げる次第であります。

当時の梓海部落には、小さい既設部落があるのみで、政府の移民計画によって、沖縄本島の読谷村を主体とした移住者は米原に、宮古の各地からは、土地の肥沃であることに目をつけて太田にそれぞれ入植し、地域住民は一体となり、風土病マラリアと戦いながら、幾多の障害をのりこえ開拓に励んだ苦難な時代でした。このような厳しい生活の中にありながらも、地域住民の教育に対する強い情熱と、ご支援により逞しい開拓魂をもった百九十名の卒業生を世に送り出すことができ、現在各界で活躍していることは、実に心強い限りであります。

楮で、小学校の不適合校舎の改築が、関係当局の御配慮によって認められ、黒島組の優れた技術によって工事は進められ、創立三十年の意義深い年に、快適な近代的校舎が落成の運びとなったことは、校区民にとってこの上もない喜びであります。校舎改築に伴い、教育環境を整備し、児童生徒の健全な育成に寄与するため、去年十月に期成会を結成して、期成会役員を中心に、事業目的達成に向けて推進して参りました。きびしい不況の折、多額の資金調達は大変な困難が予想されたのでありますが、上里哲夫校長はじめ諸先生方の熱心なご推達と、校区民はもとより、石垣・沖繩本島在住の郷友会・卒業生・一般篤志各位の御協力と御援助によって、募金活動も順調に進むことができ、所期の目的を達成することができたのであります。

ここに本事業に御支援くださいました皆様方に対し、厚く感謝申し上げます。

本校は、在籍百名余りの年もありました。長期異状干魃や、大型台風雨の襲来、さらに決定的打撃を与えた本土資本家による土地買い占めで、離農者続出による過疎化の進行で、(特に太田部落の大世帯は、血と汗を流し、長年愛着した土地を手放し都会へ引き揚げた)現在八名という在籍になりました。

併し、地域の農業産業が定着するなど、太田では国営の漁業センターが着工の運びとなり、さらにトンネル従貫道路が開通の暁には児童生徒数の増えるのも必至であります。

本校は市民の誇る於茂登連山を仰ぎ、四方は縁に囲まれ、教育環境に恵まれた学舎からは、社会を築きあげる立派な人材が輩出することを祈念し、歴代校長はじめ諸先生方のたゆまざる教育熱意に感謝を捧げ、本校の飛躍的發展を念願し、末筆ながら、皆様方の御健康と御多幸をお祈り申し上げます、ご挨拶といたします。



## 祝 辞

石垣市教育委員会教育長 藤 田 長 信

この度富野小中学校では創立三十周年を迎えられ、ここに記念式典を挙行されるにあたり、一言御祝詞を申し述べ学校をはじめ部活・卒業生の皆様と共に心からお祝い申し上げます。

本校は昭和二十年一月川平小学校の富野分校として、大田正吉先生を分校主任に迎え児童七名をもって設置され、これまでに百九十名の卒業生を世に送り、ここに三十周年の記念すべき年を迎えられた事に対し心からお喜び申し上げます。

顧みまずと本地区はその昔梓海部落といつて赤瓦屋根の家が立ちならび、石垣島一周修学旅行の宿泊地でした。部落には今から六八年前の大正五年に石垣尋常小学校川平分教場梓海仮教場が設立されて子弟の教育が行なわれ、部落周辺には八重山のヤキイと言われたマラリア病があつて部落民はこのマラリアとたたかいながら稲作を主として農業を営んでおりましたが、マラリアには勝つことが出来ず、とうとう部落は衰微してしまい折角設置された仮教場も設立十八年目の昭和九年に廃止されたと言つたわびしい歴史のある所であります。それから十八年後の昭和二七年に読谷村や美里村からの梓海開拓団の入植によって開拓部落が出来たために再び川平小学校の富野分校として学校が設立されたのであります。設立当時の校舎は言うまでもなく茅葺の堀立小屋でありましたが、翌二八年一月には中学校が併置されたため、昭和二九年八月にはブロック建鉄筋校舎が建設され、学校らしく校舎も整い昭和三二年四月には川平小中学校の分校から分離独立して名実共に独立校富野小中学校となり、今日に至つた事を思います時、校民の皆様には感深いものがあります。このように本校が小規模校で変転極まりない時にあつても動ずることなく今日まで校運が継承されて三十周年の歴史を築きあげる事が出来たのは一つに地域住民の子弟教育に対する強い情熱と御支援の賜ものだと思ひ深く感謝と敬意を表する次第であります。

ところで公教育の諸施設の整備は、当然教育委員会の責任において行なわれるべきものであります。我が石垣市は他市町村にくらべ学校や幼稚園の数が多いためその意を得ず、諸施設の整備が思うにまかせず遅れ気味な所もありますが、石垣市当局の絶大な御理解と県・国の協力援助によって毎年不適格校舎の改増築が進められ、昭和五七年度には、本校をはじめ吉原・明石・伊野田等、裏地区学校の不適格校舎改築が出来ようになりました事を皆様と共に喜ぶものであります。

この度の創立三十周年記念と同時に新装なつた小学校の校舎建築落成を記念して学校・PTA・卒業生並びに校区の皆様が一体となつて記念事業を計画され、放送施設並びに花壇の設置等の整備充実を図っていただきまして誠にありがとうございます。心から厚くお礼申し上げます。

終りに学校をはじめ父母の皆様、この三十周年を節目として子供達の健やかな人間育成のために、且つ郷土石垣市の発展建設のために、貢献する人づくりのためになお一層の御尽力を賜りますようお願い申し上げますと共に、本校の限らない校運の隆昌を祈念いたしましたお祝いの言葉といたします。



## 祝 辞

沖縄県教育庁八重山教育事務所長 本 成 善 康

まだ風土病マラリアが横行し、うっ蒼としたジャングルの続く米原に、読谷村や美里村の移住者と富野先住の人々が協働して開拓に励んだ苦難の時代。厳しい生活の中にながらも、「教育には一日の空白があってはならぬ」との地域住民の教育に対する熱情とご支援により、昭和二十七年川平小学校富野分校として創立。以来三十年の歳月が流れました。この意義深い歴史の節目を契機に、本日ここに創立三十周年記念式典が盛大にとり行われますこと、ご臨席の皆様と共に喜び申し上げます。

上里哲夫校長をはじめ諸先生方、苦難の年月を乗り越えここまで本校を充実発展させてこられた歴代の諸先生方、それに現在各界で活躍されている百九十名の本校卒業生、地域の皆様さらに関係当局に心から感謝と敬意を表します。

次に児童生徒の皆さん、このたびの三十周年を記念してPTAや地域の方々力が合わせ、よりよい学校づくりをめざして記念事業にとりくんでまいりました。校門の設置並びに校地整備、校舎改築に伴う周辺の整備美化、校内放送施設等本校の学習環境をみちがえるほどりっぱに整えてもらいました。ほんとうにありがたいことでもあります。「環境は人をつくり人は環境をつくる」と言われます。室外を四季おりおりの花で飾り、教室環境も楽しい動きのあるよう努力し、新しい感覚で学習効果が高まるように努めたいものです。美しい自然に囲まれ、小規模少人数のよさを生かしながら友と教師の語り合いの中で学習を進めていく姿は、ほんとうにほほえましくたのしく思います。どうか自分の目で物事を見、判断し、感じとる。そういう心を育てる体験学習を行い、学校生活の充実をはかってください。また記念誌には、本校三十年のあゆみ、現在の状況、児童生徒の作文などが克明に記録されました。この宝の本はあすから黙々と本校の歴史を語り継いでいきます。だいにじてください。

最後に、関係各位のご尽力に敬意を表し、本校が一層のご発展をとげられるようお祈りして、私のお祝いの言葉と致します。



## 祝 辞

石垣市長 内 原 英 郎

富野小中学校創立三十周年記念式典並びに校舎改築落成記念式典がとり行なわれるにあたり、皆様と共に喜び申し上げ、一言お祝詞を申し上げます。

富野小中学校は昭和二十七年川平小学校富野分校として設置され、次いで翌二十八年には川平中学校富野分校が併置されて以来三十年の歩みが続けてまいりました学校であります。

校区民の皆様には、戦後の琉球政府計画移民として当地域に入植されて以来、マラリアと戦いジャングルを切り開いて部落を建設された一方、子弟教育にも強い情熱を寄せ、今日の学校の基礎を築いてこられました。

この三十年の歴史はひとり学校だけでなく、むしろ地域住民と一体になった苦闘の歴史でもありました。既に開拓魂を身につけた百九十名の卒業生を世に送り、世のため人のために各界で活躍中であることは周知の通りであります。ここに学校関係者ほもと幸い不適格校舎の改築が全面的に進められ、ようやくここにその落成をみることになりましたことは慶賀の上もないことであり、そのうえ、校門、校地の整備、放送施設の整備など学校施設が逐次整備強化されますことは、まことに創立三十周年事業にふさわしい歴史的偉業と申さねばなりません。

さて、近代的な装いも新たにした教育施設のもとで、今後ますます充実した教育活動がなされるものと大きく期待されます。学校ご当局をはじめ記念事業期成会並びに校区民各位のご努力に敬意を表すると共に、富野小中学校が創立三十周年の歴史的節目を迎え、地域初等普通教育の拠点校として、又は北部における文化産業の中核的役割を担い、今後ますます発展されますようお願い申し上げます。





## お祝いのことば

生徒会長 比嘉良則

富野校創立三十年おめでとうございます。

学校が出来て三十年。その年月の中には、さまざまな苦難があったということを聞いています。それを立派に乗り越えて、今日に至ったことを考えた時、そこまで築上げた先輩、ならびにPTAの方々の苦勞を決して忘れてはいけないうと強く思うものです。

私は「学校が建てられていない頃の敷地は、まったくジャングルのようだったんだよ」と言った父の言葉を思い出し、当時の方たちに感謝の心でいっぱいになりました。

また、立派な校風造りに健闘されてきた先輩達のことでも忘れることができません。中体連での卓球二年連続優勝、排球、野球での優秀な成績、児童生徒が一致団結し、花壇に花を植え美しい学校として、市から表彰されたこと。今なお母校を忘れず運動会などにも協力のためかけつけて下さる心、私達はそれらの数々の成果や伝統・心を大事にし、ここを卒業してゆく者として、そのことを後輩たちにも受けついでいきたいと思います。

しかし、残念なことに、かつて百七名もいた生徒数も年々減り、現在では、全校生徒がたった八名になってしまいました。そのため、やろう／＼と思ったことの半分もできない状態です。このままではいけない／＼どうにかしなければ・・・と思いつつどうにもならない。しかし今、政府の膨大な計画により、太田部落に大きな養殖場の設立、トンネルの工事が進められています。それが完成した際には、交通も便利になり、人口も増えることでしょう。ですから創立三十周年を機会に、ますます発展していくような気がして、胸が高なるのです。

この胸の高なりが、実現するようみんな、みんな手をとり合い心を一つにして、フライトを燃し続けましょう。



## お祝いのことば

児童会長 堀 川 英 則

創立三十周年おめでとうございます。

このめでたい年に新しい校舎ができたのも、黒島組の方々をはじめ、たくさんの方々や、お父さんお母さん方のご協力のおかげです。ほんとうにありがとうございます。

ぼくたちは、新しい校舎をつくるあいだ音楽室や家庭科室で勉強していました。毎日、のこぎり・金づち・クレーンの音が山々までもとどろき、おちついて勉強することもできませんでした。おまけに何ヶ月も雨続きで運動場はぬかるみ、くつも教室もどろんこになりました。

そんな日が続くと、祖母の語った昔の富野校を思い出し、あの頃の方たちがどんなに苦労なさったか、ますますはっきりと目にうつるようで、感謝とすばらしかったという気持ちがこみあげてきます。

どろんこの運動場。

どろんこの教室。

でも、今では校舎の窓もアルミサッシになり、トイレも水洗になってピッカピカに光っています。また、かべにはきれいなクリーム色のペンキがぬられ、水のみ場や清掃用具入れもついています。広い教室にたった二・三人入るのは、もったいない気がします。

この新校舎で、ぼくはほとんど勉強することなく卒業していくのが残念ですが、クラブの時など使わせてもらえると思うので少しはうれしいです。

今、工事中の石垣島従断道路のトンネルが開通したときには、富野校もきっとにぎやかに思っています。その頃になると、野球・バレーボール・かけっこ・サッカーと運動場いっぱいにかいまわり、キャッキャッと楽しい声が中学校の教室までひびいてくることだろう。そんな事を考えると、ぼくはうれしさを胸がわくわくするのを、おさえることができないのです。そして、そんな日がきたら、野球もバスケットもできるし、ジン取りなどの遊びもしようといういろいろな思いがわき出てきて、ますます楽しくなります。

ですから、生徒がふえ、富野校がいつまでもいつまでも、大きく大きく発展するように祈っています。